

授業科目名 (講義題目)	資産運用とリスク管理 (SMBC 日興証券グループ提供講義)		開講学期 単位数	前期 2単位
担当教員	松下 雄一		講義コード	科目区分 対象学生
			18176008	
開講予定日	① 4/11 ② 4/18 ③ 4/25 ④ 5/9 ⑤ 5/16 ⑥ 5/23 ⑦ 5/30 ⑧ 6/6 ⑨ 6/13 ⑩ 6/20 ⑪ 6/27 ⑫ 7/4 ⑬ 7/11 ⑭ 7/18 ⑮ 7/25 試験 8/1			
履修条件	条件はありません。 「意欲」と「好奇心」があれば十分です。	キーワード	ニューノーマル、ポピュリズム、 リスク、分散投資、アセットアロ ケーション、モラルハザード、量 的緩和、マイナス金利	
全体の教育 目標	資産運用の実際を知り、必要知識を習 得し、運用手法および投資のリスク管 理等を学びます	個別の学習 目標		

授業の概要

ようこそ！！ ワクワク、ドキドキ、時にハラハラの『金融の世界』へ・・・・・・・・！！

ここ数年の世界経済・金融では、リーマン・ショック（2008）や欧州債務危機（2009）、新興諸国の台頭など、過去の経験則やパターンからは説明できない事象が多発しています。

記憶が新しい一昨年（2016年）では、世界が驚愕した「英国のEU離脱決定」、米国大統領選挙での事前予想を覆す結果など、その結果の背景にある「反グローバル化、自国第一主義、反移民・難民」という、これまでの「グローバル化、共存共栄、難民移民の支援」と全く異なる潮流が世界を覆いはじめている状況を、世界全体が知るようになりました。

また、金融政策・市場金利における「ゼロ金利」「マイナス金利」などのように、4000年を超える「金利の歴史」で初めて示現したことは何を意味するのでしょうか？

これら事象が、経済の将来予想や投資判断を一段と難しくしているのは間違いありません。

この金融経済環境の歴史的变化により、複雑化・多様化した経済・金融・市場をどう理解すべきか、それを踏まえた「自身のライフプラン」を支える『資産運用』はどうあるべきか、今一度、真剣に考える時を迎えています。

私たちは「従来発想」「既成概念」「固定観念」「思い込み」を一掃すべき時です。

そして、それら変化や新トレンドの『本質』を正しく理解するために必要な「経済金融知識」とはどういうものか・・・これらの問題意識をベースに、さまざまな観点から講義をすすめていきます。『新トレンド』＝『あるべき将来像』とは限らないことを学びましょう。

授業で取り上げるテーマ例：(世界経済の予測方法、経済金融統計の見方、金融政策の実際、金融資産の特性、国際資金の流れ、世界経済金融の構造変化・・・)

皆さんには、適切な金融知識を正しく活用できる「金融リテラシー」（≒金融知力）を早急に身につけることが求められています。

担当講師は、海外駐在（3回）、40か国を超えるの海外出張の実務、幼少時の海外居住でさまざまな歴史的イベント、事件、経済危機、紛争に遭遇し、目の当たりにしています。その事例を各回の内容に沿って紹介し、よりリアリティ、臨場感のある講義にしていきます。

(キューバ危機、ケネディ暗殺、プラザ合意、ブラックマンデー、湾岸戦争、アジア通貨危機、リーマンショック、欧州債務危機等)

レポートは2回～米ハーバードビジネス等で取り入れている「ケース・スタディ」形式。

皆さんが「米国中央銀行・FRB」「欧州中銀」等の理事会メンバーになり「次の一手」の金融政策提言、さらに「IMF」スタッフの立場で中国など新興諸国にアドバイスする、など世界経済・金融の問題に解決策を提示する、という感覚で書いて下さい。斬新かつ自由闊達なレポートを期待します。

毎回の授業に、最新の経済・金融情報も盛り込み、知識を随時アップデートします。
そして、講師の『米国ウォール街』での業務経験談や、『欧州・中東・アジア等』での「こ
こだけの話」など、現実の「ワクワク・ドキドキ・ハラハラ」のビジネス世界についても、
いろいろお話ししましょう。

国際ビジネス現場の画像も紹介したいと思います。

日本語が第一言語でない学生諸氏の履修も大歓迎です！英文、英語対応も臨機応変にし
ます。

試験、レポートが日本語で対応可能であれば望ましいですが、ぜひ履修相談して下さい。
Non-Japanese speakers are always welcome, come and join' us!

「一方通行」でなく、学生の皆さんとコミュニケーションを取りながら講義を一緒に進め
ます。

質問・意見は講義のあと、講義の中でも大歓迎します。一緒に授業を盛り上げていきましょ
う！

知識習得のみに止まらず、今後の時勢・時代の変化に対応できる「柔軟な思考力」を身
につけたい、と望む学生諸氏の受講を大いに期待しています。

『絶滅を免れた生き物は、強かったからではなく、環境に順応し、変化を遂げ、進化していっ
たから・・・』は至言です。我々もぜひ、こうありたい。では、授業でお目に掛かりましょ
う！！

授業の進め方

毎回、講義内容に沿った「レジメ」を配布します。「レジメ」＝「テキスト」です。

レジメとともに毎回、参考資料を配布します。

試験についても、レジメ内容の範囲内で出題します。

そして、前述のように講師の『米国ウォール街』での業務経験談や、『欧州・中東・アジア等』
での「ここの話」など、現実の「ワクワク・ドキドキ・ハラハラ」のビジネス世界に
ついて、いろいろお話ししましょう。国際ビジネス現場の画像も紹介できたらと思います。

教科書および 参考図書

「リーマンショック・コンフィデンシャル」上巻（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）

『金融工学』は何をしてきたのか（今野浩著 日本経済新聞社）

「グローバル・インベスティング」（R. イボットソン、G. プリンソン ニッセイ基礎研
東京経済新報社）

「世界金融危機でわかった、しぶとい分散投資術」（田村正之著 日本経済新聞社）

→担当講師は田村氏の取材を受け、著書にコメントが掲載されている。

「FPのためのアセットアロケーション入門」（北山雅一編著 近代セールス社）

「今日から役立つ、経済の読み方と投資の基礎」（認定NPO法人 金融知力普及協会）

「Soros on Soros（邦題「ジョージ・ソロス）」」（ジョージ・ソロス著 テレコムスタッフ社）

→担当講師は、この本の監修を担当（分担）。

「World Economic Outlook（世界経済見通し）」（国際通貨基金：IMF）→「<http://www.imf.org>」にアクセス

・・・その他参考図書は、講義の中で適時紹介します。

試験・成績評 価の方法等

定期試験（60%）、レポート（2回・40%）、その他平常点も考慮し総合評価。

レポートのテーマは講義にて伝達。主に金融経済の時事問題（ケーススタディ式）～「講
義概要」参照。「学生」ではなく、真に「大人」「プロフェッショナル」のレポートの書き
方を習得しましょう。